埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第114集

塚原古墳群

2010.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第114集

塚原古墳群

2010.3

深谷市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、市域の北部は利根川水系の低地、南部は秩父山地から流れ出る荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっています。

深谷市畠山から本田にかけて所在する塚原古墳群は、深谷市南部の川本地域を代表する古墳群の一つであり、当地域の古墳時代を知る上で重要な遺跡であります。早い時期から開墾されて、多数の古墳が削平されていることから、遺跡が消滅していることも予想されましたが、古墳時代の集落跡が残っていることがわかりました。

本報告書は、集合住宅建設に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめたものです。今回の調査で、古墳群と同時代の集落跡が確認されたことは荒川右岸の河岸段丘上の歴史を考える上で大きな成果であります。

本書が、学術研究だけでなく、学校教育や生涯教育の場において、地域の歴史学習や文化財保護の普及、啓蒙の際の資料として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで多大なるご理解とご協力を賜りました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

平成 22 年３月

深谷市教育委員会教育長職務代理者
教育次長　石田　文雄

例　　言

１．本書は、埼玉県深谷市大字畠山字押堀 1538 － 1 における集合住宅建設に伴う発掘調査報告書である。
２．発掘調査は、深谷市教育委員会が実施した。
３．発掘調査期間は平成 21 年７月 27 日から９月３日までである。
４．発掘調査、出土遺物の整理、報告書の執筆を幾島　審が担当した。
５．遺跡の基準点測量・遺構測量に関しては、株式会社東京航業研究所に委託した。
６．出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　　例

１．遺跡原点は国家方眼座標Ｘ＝ 14840.000、Ｙ＝－ 49960.000 である。図面中の方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。
２．遺跡位置図は国土地理院発行『三ヶ尻』（1/25,000）を、調査位置図は川本町都市計画図（1/5,000）を使用した。
３．遺物観察表の記載は、以下の通りである。
・計測値の単位は㎝である。
・器径、器高で（　）を付したものは推定値である。
・器高で残を付したものは口縁部・底部からの残存値である。
４．遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。

発掘調査の組織

平成 21 年度
発掘調査・報告書刊行

深谷市教育委員会	教 育 長	猪野　幸男
	教育次長	石田　文雄
	次　　長	島崎　　保
事務局	生涯学習課課長	澤出　晃越
	課長補佐	吉場　厚仁
	文化財保護係長	村松　　篤
	主　　査	宮本　直樹
	主　　任	荻野　直美
	主　　任	知久　裕昭
	主　　事	幾島　　審
	主 事 補	飯島　峻輔

調査参加者
新井　照正　市川喜和子　上野　享子　梅沢　敏男　大木　良子　川田　正枝　坂場　真紀
清水伊都代　下田　洋子　高橋理恵子　松下知恵子　村田いく実　山崎　孝子　吉野みゆき

目　　次

序
例言
凡例
発掘調査の組織
目次
Ⅰ　発掘調査の経過 …… 1
　1　発掘に至る経緯 …… 1
　2　調査の経過 …… 1
Ⅱ　周辺の遺跡 …… 4
Ⅲ　遺構と遺物 …… 4
　1　住居跡 …… 4
　2　土坑 …… 5
Ⅳ　まとめ …… 15
写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第１図　遺跡の位置と古墳時代の遺跡 …… 2
第２図　塚原古墳群範囲及び調査位置図 …… 3
第３図　調査地全体測量図 …… 6
第４図　１号竪穴建物跡実測図 …… 7
第５図　１号竪穴建物跡断面図 …… 8
第６図　１号竪穴建物跡炉跡実測図 …… 8
第７図　２号竪穴建物跡実測図 …… 9
第８図　２号竪穴建物跡炉跡実測図 …… 9
第９図　３号竪穴建物跡実測図 …… 10
第10図　３号竪穴建物跡カマド実測図 …… 11
第11図　土坑実測図 …… 11
第12図　遺物実測図（1/2） …… 12
第13図　遺物実測図（2/2） …… 13

挿表目次

第１表　出土遺物観察表（1/2） …… 14
第２表　出土遺物観察表（2/2） …… 14

図版目次

図版１　1.調査地全景　2.調査地全景
図版２　1.Ａ区全景　2.Ｂ区全景
図版３　1.１号竪穴建物跡　2.１号竪穴建物跡　3.ピット１　4.貯蔵穴　5.炉跡
図版４　1.２号竪穴建物跡　2.炉跡　3.ピット１　4.ピット２　5.調査風景
図版５　1.３号竪穴建物跡　2.３号竪穴建物跡　3.カマド　4.貯蔵穴　5.出土状況
図版６　出土遺物
図版７　出土遺物
図版８　トレンチ

Ⅰ　発掘調査の経過

１　発掘に至る経過

深谷市は、埼玉県北西部に位置し東京都心から70㎞圏にあり、東は熊谷市、南は比企郡嵐山町・大里郡寄居町、西は本庄市・児玉郡美里町、北は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市・太田市に接している。市の面積は137.58㎢、人口は約148,000人である。

地形は、北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形である。

気候は、夏から秋にかけて降水が多く、冬になると北よりの季節風が強く、乾燥するという太平洋側の気候の特色とともに、内陸性気候の性格も併せもっている。このため、夏と冬の平均気温の差が大きく、さらに日中は暑く、夜間は涼しいという一日のなかでの温度差が大きいこの地域では、雷が多く、雷雨が夏の降水量を多くする一因となっている。

農業・工業ともに盛んで、深谷ねぎの産地として有名である。

歴史的には後期旧石器時代から始まり、縄文時代、弥生時代、古墳時代と時代によって遺跡の増減はあるが生活の痕跡が残されている。奈良・平安時代には榛沢・幡羅・男衾郡が置かれ、榛沢・幡羅郡の中心地として郡家が設置された。平安末期から鎌倉時代にかけては鎌倉幕府の有力御家人である畠山重忠をはじめ岡部六弥太・榛沢成清・本田近常などの坂東武者を輩出し、市内の地名にその名を残している。室町・戦国時代には上野方面の古河公方勢力に備えた深谷上杉氏の拠点であり、近世においては中山道の宿場町として栄えた。また、近代日本の経済界を築いた渋沢栄一の生地としても知られており、市内には様々な時代の貴重な文化財が多く残されている。

塚原古墳群は、深谷市南部で市街地より南へ約３.５㎞の地域にあり、荒川右岸の河岸段丘上に位置している。標高は61～63ｍであり、地形的には南から北へ荒川に向かって緩やかに傾斜しているが概ね平坦である。遺跡の現状は田畑の中に住宅が点在しているが、県道深谷嵐山線沿いでは集合住宅建設など開発が進みつつある。そのため、深谷市教育委員会は塚原古墳群周辺の地域を重要な埋蔵文化財包蔵地として、事前調査などを行ってきた。

平成21年５月、塚原古墳群内の深谷市畠山字押堀1538－１で集合住宅建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は工事主体者である清水伊佐雄氏との協議を経て、平成21年７月７日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、竪穴建物跡や土師器が検出された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について教育委員会と清水伊佐雄氏で協議を行い、工事により埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに文化財保護法第99条の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成21年７月13日付深教生発第347号）を提出し、準備に入った。

なお、埼玉県教育委員会教育長から、平成21年７月31日付教文第５－406号で指示通知を受けた。

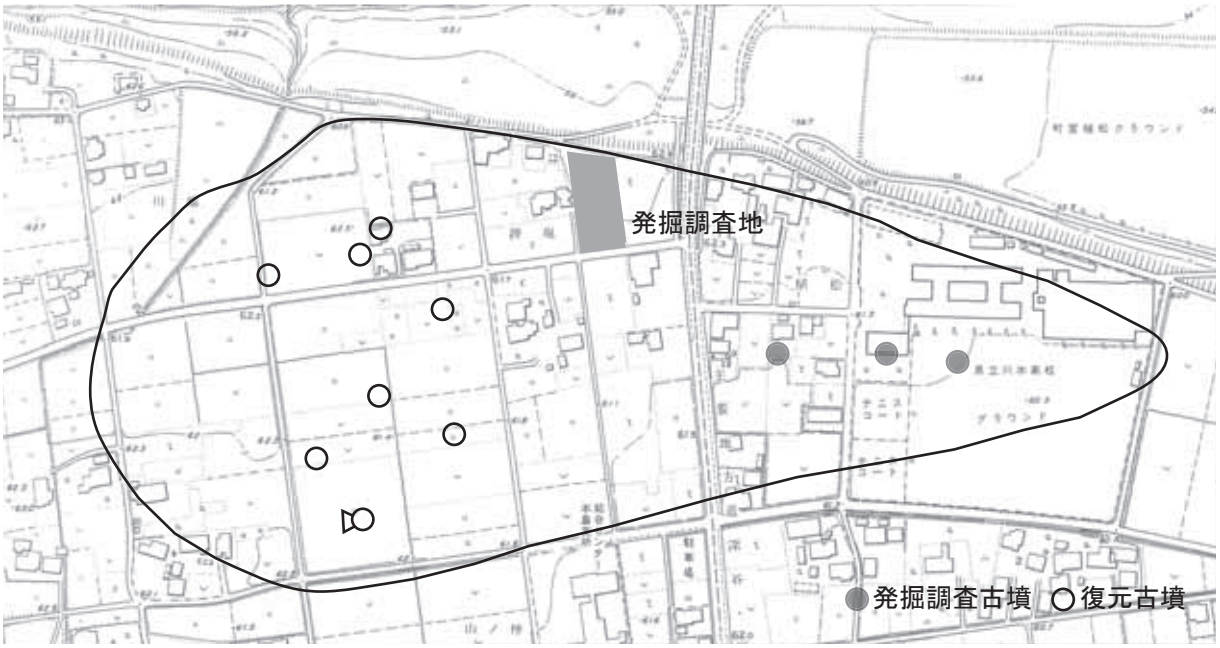
２　調査の経過

塚原古墳群の発掘調査の経過は、以下のようである。

７月27日（月）表土剥ぎ
７月28日（火）表土剥ぎ
７月29日（水）午前、表土剥ぎ
７月30日（木）Ａ区遺構確認
７月31日（金）ＳＪ１掘削
８月３日（月）ＳＪ１掘削
８月４日（火）ＳＪ１掘削
８月５日（水）ＳＪ１土層図作成。ＳＪ２掘削
８月６日（木）ＳＪ１・２掘削
８月７日（金）ＳＪ２土層図作成。
８月10日（月）雨で中止。

第１図　遺跡の位置と古墳時代の遺跡

８月11日（火）ＳＪ１・２遺構精査。
８月12日（水）Ａ区写真撮影。ＳＪ１遺物出土状況図作成。Ｂ区遺構確認。
８月17日（月）Ｂ区遺構確認。ＳＪ２断面図作成。ＳＪ１遺構精査。ＳＪ３掘削開始。
８月18日（火）ＳＪ３掘削。ＳＫ１・２・３掘削。トレンチ確認。
８月19日（水）ＳＪ３掘削。ＳＪ３、ＳＫ１・２・３土層図作成。トレンチ確認。
８月20日（木）ＳＪ３完掘。ＳＫ１・２・３完掘。ＳＪ３カマド精査。
８月21日（金）ＳＪ３カマド精査。ＳＪ３出土状況図作成。ピット精査。
８月24日（月）貯蔵穴精査。
８月25日（火）Ｂ区写真撮影。
８月27日（木）測量。
８月28日（金）測量。
９月３日（木）Ａ区写真撮影。撤収。調査終了。



第２図　塚原古墳群範囲及び調査位置図

Ⅱ　周辺の遺跡

川本地域において古墳時代の遺跡は、現在までに30遺跡が確認されている。

荒川左岸の遺跡としては、昭和39年に２基の円墳が調査された見目古墳群と昭和42年にごんだ塚古墳が調査された長在家古墳群、平成元年に調査された大門遺跡がある。

荒川右岸の河岸段丘上には上流から昭和42年と平成３年、４年に合わせて４基の古墳が調査された箱崎古墳群、昭和43年に３基の円墳が調査された塚原古墳群、そして荒川右岸最大の古墳群であり昭和45年に圃場整備の関係で27基、平成11年から16年まで保存整備の関係で９基、平成19年に緊急調査１基の計37基の古墳が調査されている県指定史跡の鹿島古墳群がある。古墳群と古墳群の間や古墳群に隣接して如意遺跡や川端遺跡、畠山館跡など古墳時代後期の集落跡が調査されている。

江南台地上には調査は行われていないが上大塚古墳群や清水山古墳群が確認されており、白草遺跡では古墳時代前期・中期の集落跡、円阿弥遺跡では古墳時代前期の集落跡が、また、古墳時代後期の集落跡として権現堂遺跡が、平成元年に調査されている。

今回調査した塚原古墳群は、深谷市南部の川本地域に所在し、荒川右岸の河岸段丘上で、植松橋の南詰付近を中心に東西約700ｍ、南北約300ｍの範囲で荒川に沿って立地する。遺跡は荒川に向かい緩やかに傾斜し、標高61ｍ前後である。

古墳群域内においては、県道深谷嵐山線西側の畠山地域で本調査地の周辺７ヶ所で確認調査を行っているが遺跡は確認されておらず、今回が初めての遺跡の検出である。県道東側の本田地域では昭和43年に古墳３基が調査されており、今年度の埼玉県教育委員会による試掘で川本高校敷地内に古墳群跡が残っていることが判明している。

今回の調査地は県道深谷嵐山線の西側で荒川の河岸段丘上の北端部に位置する。本調査地における遺跡の遺存状況は、概ね良好である。調査面積は約580㎡である。

Ⅲ　遺構と遺物

今回の調査では、集合住宅建設部分については北側をＡ調査区、南側をＢ調査区として調査した。その結果、古墳時代前期の竪穴建物跡２軒と古墳時代後期の竪穴建物跡１軒、時期不明の土坑３基が検出された。この他、浄化槽や浸透枡を設置する部分についてはトレンチ調査を行ったが、遺構や遺物は検出されなかった。以下、検出された遺構と出土遺物について記す。

１　住居跡

１号竪穴建物跡

Ａ調査区の北側中央部から西寄りにあり、Ｂ・Ｃ－２グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は南北7.4ｍ、東西6.9ｍ、長辺の軸方向は、Ｗ－71°－Ｎである。確認面から床面までの深さは約20㎝を測る。覆土は暗褐色土を中心とし、貼床などは確認できなかった。炉跡は中央からやや南東よりに確認された。焼土範囲は45×45㎝のほぼ円形で、深さは６㎝である。貯蔵穴は西壁際で検出された。平面形は楕円形で、長径87㎝、短径56㎝を測る。床面からの深さは25㎝を測る。壁溝は南壁と東壁、北壁の一部で検出された。ピットは４基検出された。各ピットの床面からの深さは、Ｐ１は52㎝、Ｐ２は５㎝、Ｐ３は14㎝、Ｐ４は14㎝を測る。Ｐ１は位置と規模から主柱穴の可能性がある。遺物は古墳時代前期に属する甕や石田川式の特徴をもつ台付甕の脚部、編物石などが建物跡の南半、特に東南の壁沿いから集中して出土した。縄文土器が１点覆土に混入していた。

２号竪穴建物跡

Ａ調査区の南側中央部からやや西寄りにあり、Ｃ－２グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は南北2.9～2.5ｍ、東西３ｍ、長辺の軸方向はＥ－21°－Ｓである。確認面から床面までの深さは約15㎝を測る。覆土は黒褐色土を中心とし、貼床や周溝は確認できなかった。炉跡は中央部に

２ヶ所確認された。焼土の範囲は１号炉跡では長軸36㎝、短軸28㎝の楕円形で深さは３㎝である。２号炉跡は39×37㎝の円形で、深さは４㎝である。ピットは２基検出された。Ｐ１は37㎝、Ｐ２は41㎝を測る。Ｐ１は位置と規模から主柱穴の可能性がある。Ｐ２は貯蔵穴の可能性がある。遺物は古墳時代前期の壺の底部が建物跡覆土より出土した。

３号竪穴建物跡

Ｂ調査区の北側中央部、Ｅ－２グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は南北4.4ｍ、東西4.2ｍ、主軸方向はＮ－72°－Ｅである。確認面から床面までの深さは約17㎝を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は黒褐色土を中心とし、貼床や周溝は確認できなかった。カマドは建物跡の東壁中央やや南よりに構築される。燃焼部のみが検出された。袖は黄褐色土を基調とする粘質土で造られる。幅55㎝、奥行き75㎝、確認面からの深さは18㎝を測り、竪穴内に収まる。支脚には石を用いていた。貯蔵穴は南東隅で検出された。平面形は長径100㎝、短径65㎝の楕円形で、床面からの深さは36㎝を測る。ピットは主柱穴と考えられるものが４基検出された。各ピットの床面からの深さは、Ｐ１は39㎝、Ｐ２は39㎝、Ｐ３は44㎝、Ｐ４は50㎝を測る。遺物は、古墳時代後期の甕、坏などが建物跡南東部より集中して出土した。

２　土坑

Ｂ調査区内から３基の土坑が検出された。詳細は以下の通りである。

１号土坑

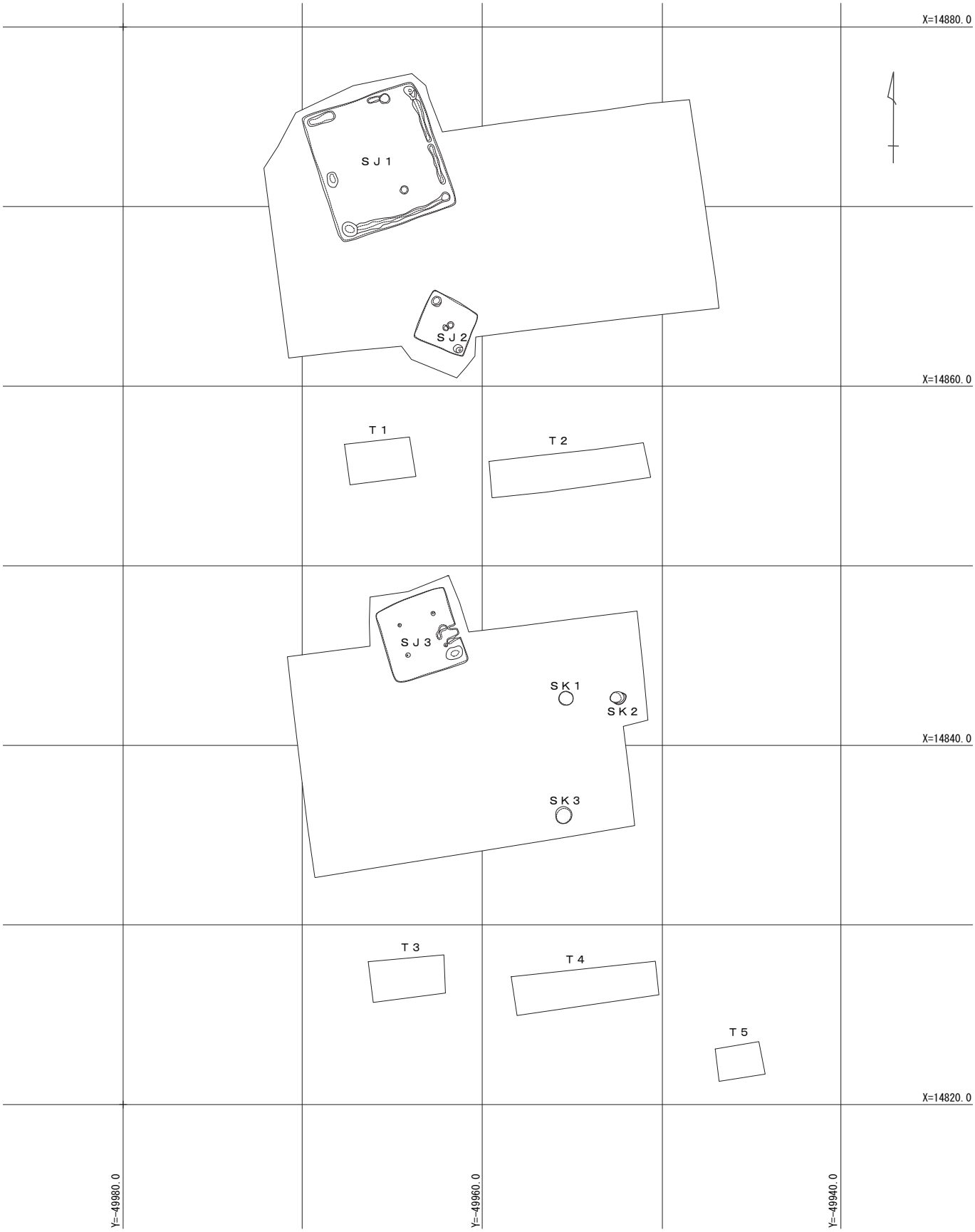
１号土坑はＥ－３グリッドに位置している。長径88㎝、短径78㎝を測り、楕円形を呈する。深さは４㎝と極めて浅い。遺物は出土しなかった。

２号土坑

２号土坑はＥ－３グリッドに位置している。長径87㎝、短径73㎝を測り、楕円形を呈する。確認面から８㎝の浅い掘り込みの西部が深さ26㎝になり、西壁をオーバーハングしている。遺物は出土しなかった。

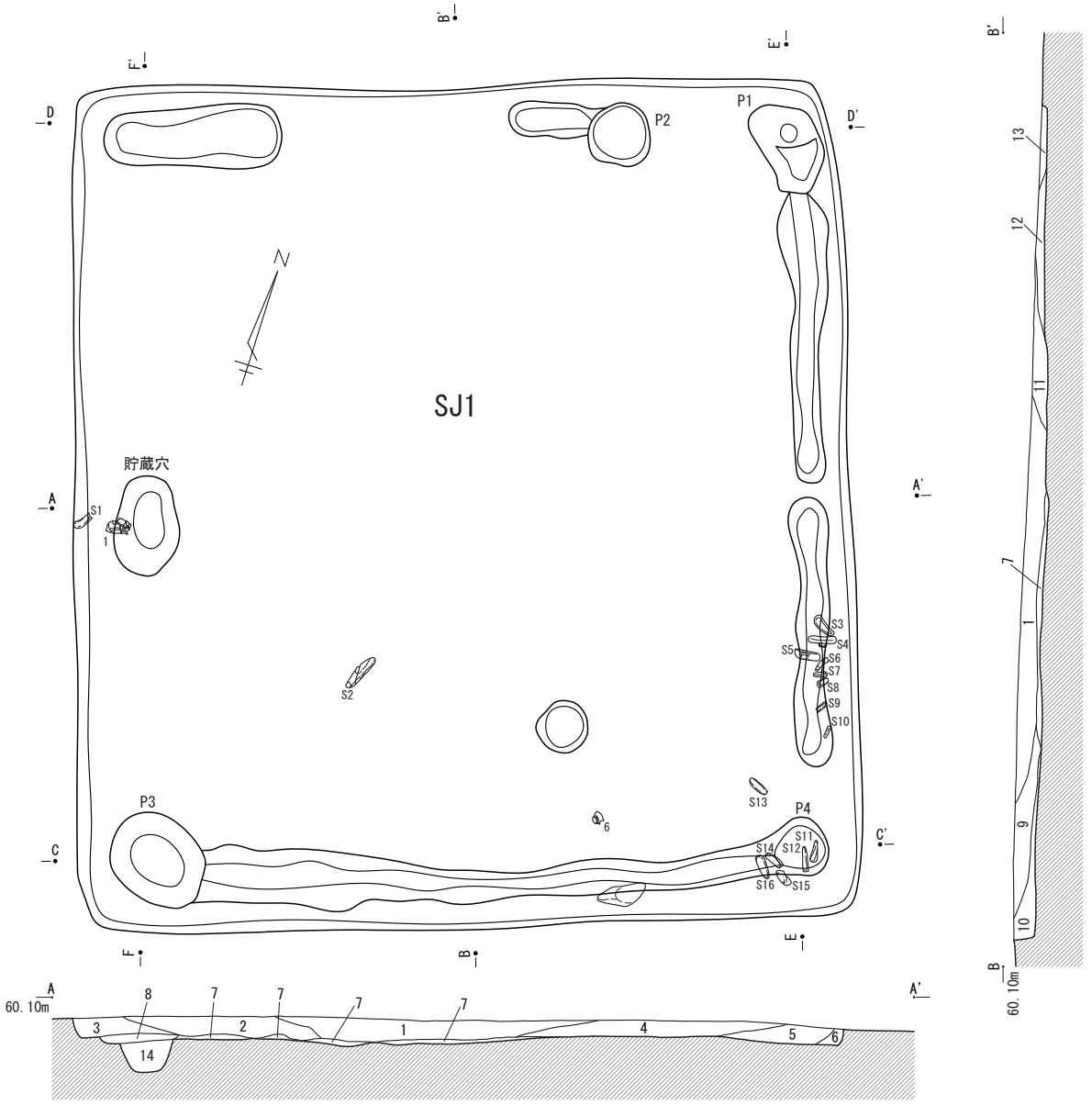
３号土坑

３号土坑はＦ－３グリッドに位置している。長径95㎝、短径90㎝、深さ24㎝で楕円形を呈する。遺物は出土しなかった。



第３図　調査地全体測量図（1/300）

0　10m

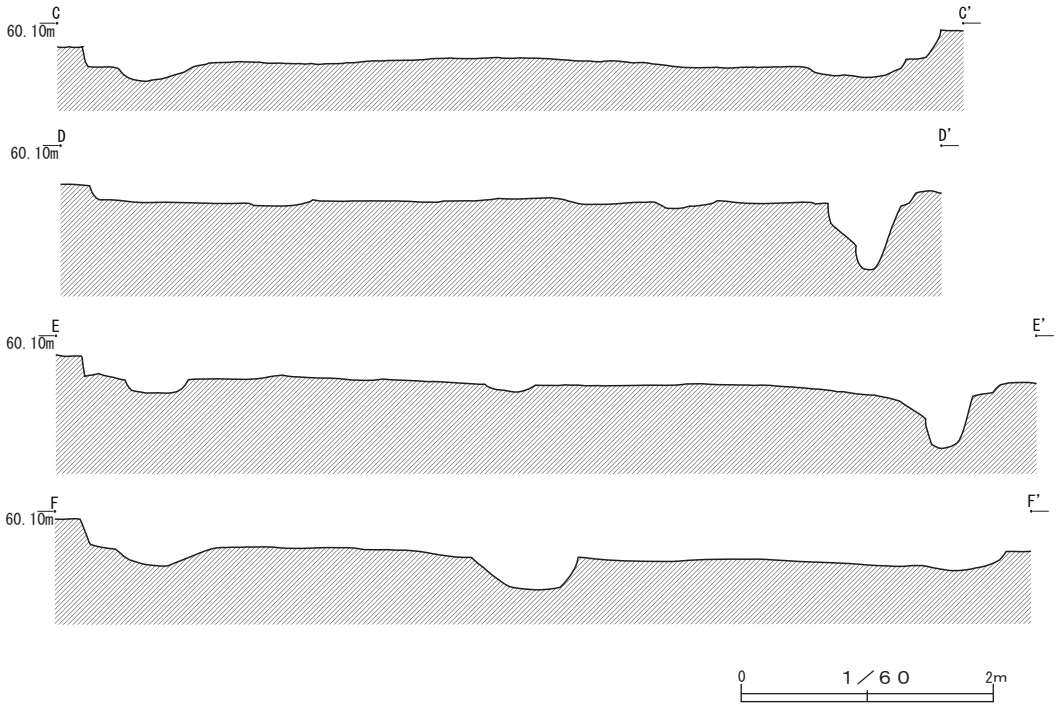


１号竪穴建物跡　土層説明

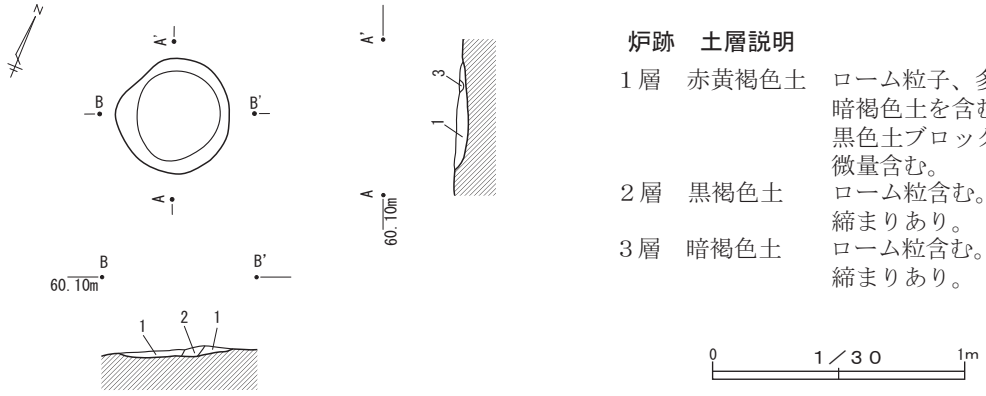
１層　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック（φ1cm）を少量含む。締まりあり。
２層　暗褐色土　ロームブロック（φ2～5cm）を少量含む。締まりあり。
３層　暗褐色土　ローム粒子を少量含む。締まりあり。
４層　暗褐色土　ロームブロック（φ2～5cm）を少量含む。締まりあり。
５層　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1cm）を微量含む。締まりあり。
６層　暗褐色土　ロームブロック（φ1cm）を少量含む。締まりあり。
７層　黄褐色土　黒褐色土を含む。締まりあり。
８層　黒褐色土　小礫（1～2cm）を微量含む。締まりあり。
９層　暗褐色土　ロームブロック（φ1cm）を微量含む。締まりあり。
10層　暗褐色土　ロームブロック（φ0.5cm）を少量含む。黒褐色土ブロック（φ1cm）微量。締まりあり。
11層　暗褐色土　ロームブロック（φ1cm）を少量含む。黒褐色土を含む。締まりあり。
12層　黄褐色土　暗褐色土を多量含む。締まりあり。
13層　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。締まりあり。
14層　暗褐色土　φ1～5cmの礫主体層。

0　1／60　2m

第４図　１号竪穴建物跡実測図



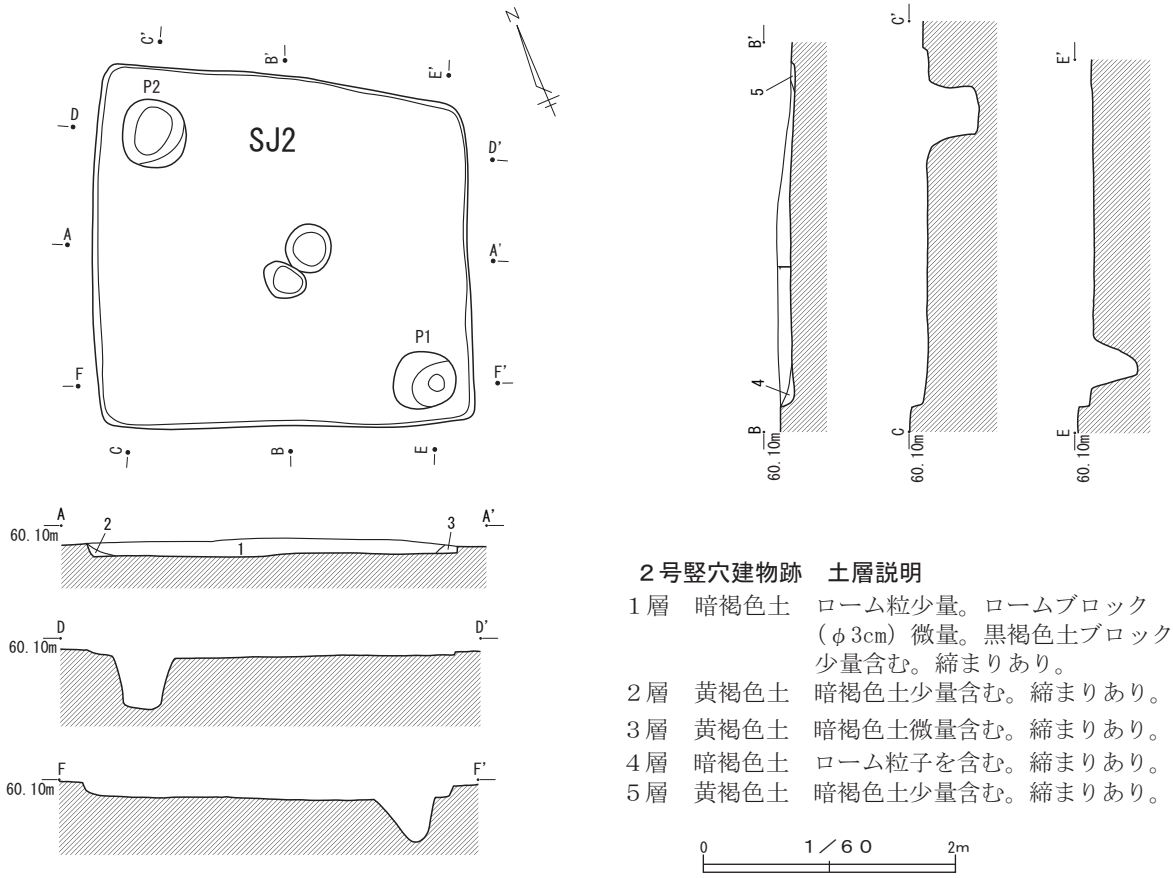
第５図　１号竪穴建物跡断面図



炉跡　土層説明

１層	赤黄褐色土	ローム粒子、多量。暗褐色土を含む。黒色土ブロック微量含む。
２層	黒褐色土	ローム粒含む。締まりあり。
３層	暗褐色土	ローム粒含む。締まりあり。

第６図　１号竪穴建物跡炉跡実測図

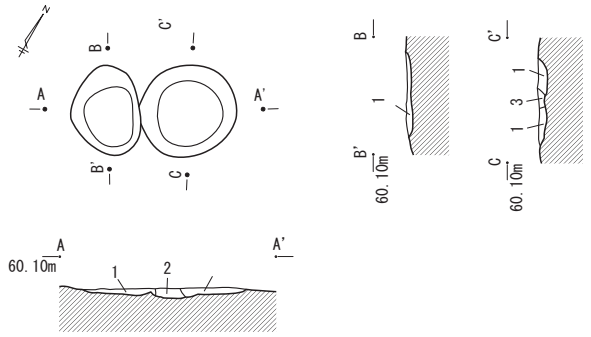


２号竪穴建物跡　土層説明

１層　暗褐色土　ローム粒少量。ロームブロック（φ3cm）微量。黒褐色土ブロック少量含む。締まりあり。
２層　黄褐色土　暗褐色土少量含む。締まりあり。
３層　黄褐色土　暗褐色土微量含む。締まりあり。
４層　暗褐色土　ローム粒子を含む。締まりあり。
５層　黄褐色土　暗褐色土少量含む。締まりあり。

0　１／６０　2m

第７図　２号竪穴建物跡実測図

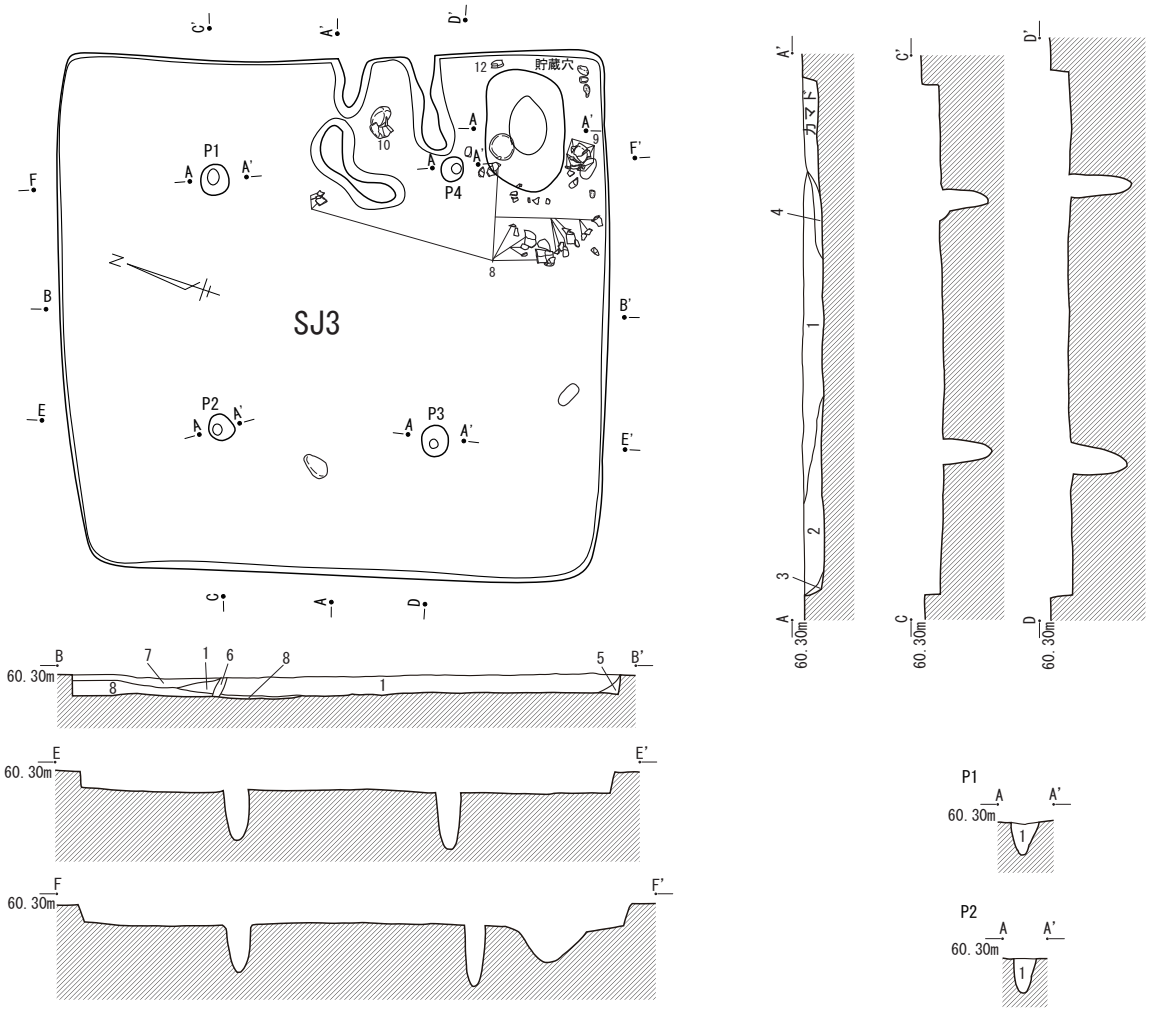


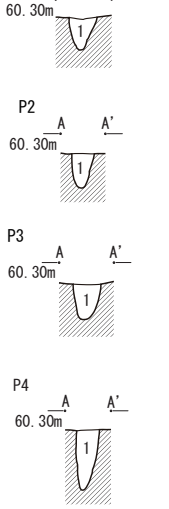
炉跡　土層説明

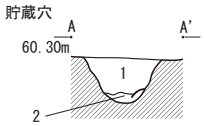
１層　赤黄褐色土　ローム粒・暗褐色土含む。締まりあり。
２層　黒褐色土　ローム粒微量含む。締まりあり。
３層　黒褐色土　ローム粒微量含む。締まりあり。

0　１／３０　1m

第８図　２号竪穴建物跡炉跡実測図







３号竪穴建物跡　土層説明

１層　黒褐色土　ローム粒・炭化物微量含む。締まりあり。
２層　暗褐色土　ローム粒多量。黒褐色土ブロック微量含む。締まりあり。
３層　黄褐色土　暗褐色土を含む。締まりあり。
４層　黄褐色土　黒褐色土ブロックを微量含む。締まりあり。
５層　黄褐色土　暗褐色土を含む。締まりあり。
６層　黄褐色土　黒褐色土ブロックを少量含む。締まりあり。
７層　暗褐色土　ローム粒子微量含む。白色粒子を多量含む。締まりあり。
８層　暗褐色土　ローム粒子を多量含む。締まりあり。

ピット　土層説明

Ｐ１
１層　暗褐色土　炭化物・焼土粒を微量・ローム粒子を少量含む。締まりあり。

Ｐ２
１層　暗褐色土　炭化物微量含む。ローム粒を少量含む。締まりあり。

Ｐ３
１層　暗褐色土　炭化物微量含む。（φ2～5cm）小礫を微量・ローム粒子少量含む。締まりあり。

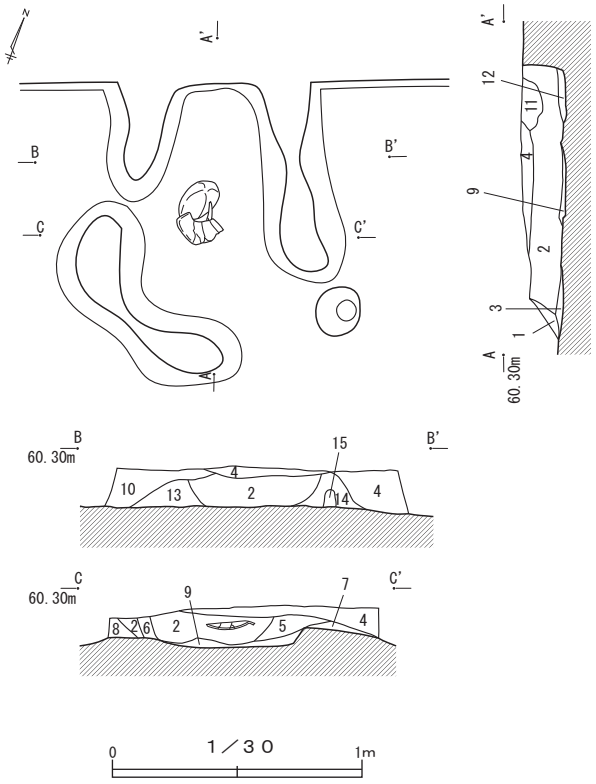
Ｐ４
１層　暗褐色土　炭化物微量含む。ローム粒子を少量含む。締まり粘あり。

貯蔵穴　土層説明

１層　暗褐色土　　炭化物少量・黒褐色土少量・ローム粒微量含む。締まりあり。
２層　暗赤褐色土　焼土粒多量含む。締まりあり。

0　１／６０　2m

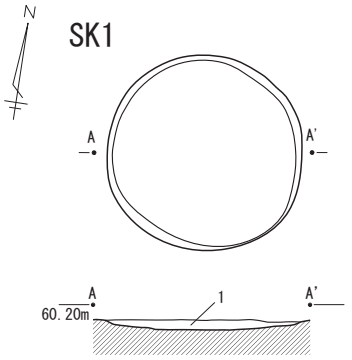
第９図　３号竪穴建物跡実測図



３号竪穴建物カマド　土層説明

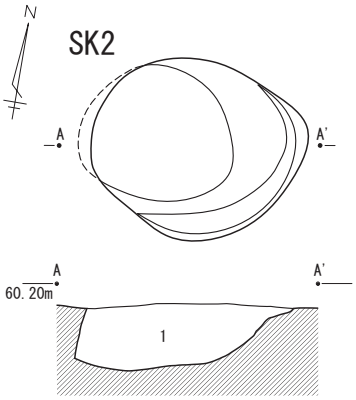
１層	暗褐色土	締まりあり。
２層	赤暗褐色土	黒色土ブロック、焼土粒φ2～4cm 焼土ブロック少量含む。炭化物・小礫微量含む。締まりあり。
３層	黄褐色土	暗褐色土微量含む。締まりあり。
４層	黒褐色土	ローム粒子を含む。白色粒子を多量含む。締まりあり。
５層	黒褐色土	焼土粒・焼土ブロック・炭化物微量含む。締まりあり。
６層	暗褐色土	焼土粒微量含む。締まりなし・粘ややあり。
７層	暗褐色土	ローム粒・黒褐色土含む。締まりあり。
８層	暗褐色土	ローム粒・黒褐色土微量含む。締まりあり。
９層	黄白色土	締まりあり。
10層	暗褐色土	ローム粒少量・焼土粒・焼土ブロック（φ0.5～1cm）微量・炭化物微量・白色粒子少量含む。締まり・粘あり。
11層	暗黄色土	白色粒子を少量・焼土粒子微量・ローム粒子多量含む。暗褐色土含む。締まりあり。
12層	黄褐色土	暗褐色土含む。締まりあり。
13層	暗黄色土	暗褐色土微量含む。締まりあり。
14層	暗黄色土	暗褐色土微量含む。締まりあり。
15層	暗褐色土	ローム粒を微量含む。締まりあり。

第10図　３号竪穴建物跡カマド実測図



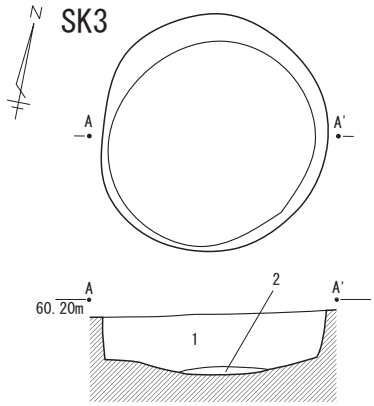
１号土坑 土層説明

１層　黒褐色土　黄色砂を多く含む。締まりあり。



２号土坑 土層説明

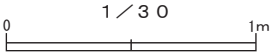
１層　黒褐色土　ローム粒子少量含む。締まりあり。砂質。



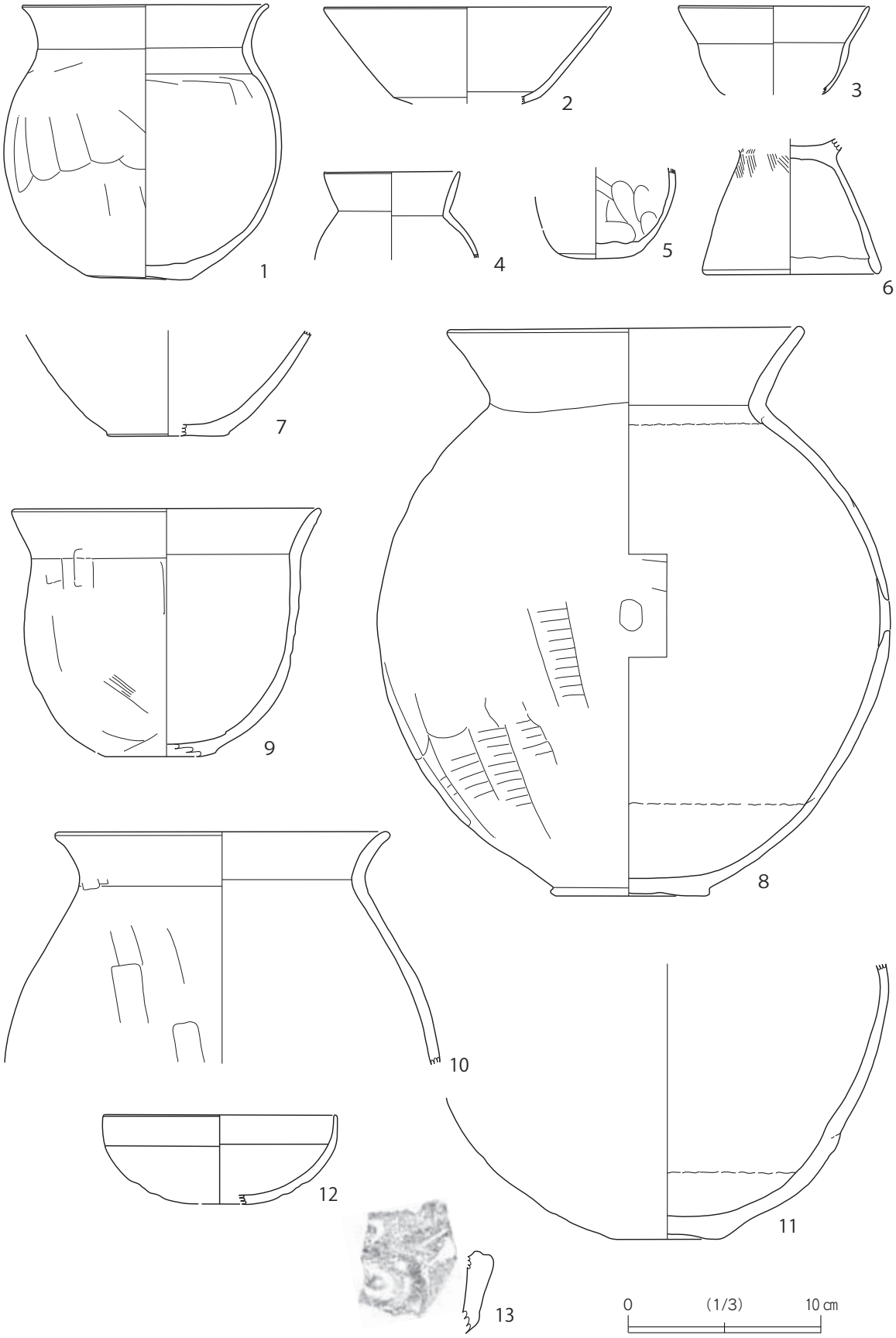
３号土坑 土層説明

１層　黒褐色土　灰黄色砂を多く含む。締まりあり。

２層　灰黄色砂　黒褐色土を微量含む。



第11図　土坑実測図



第12図　遺物実測図（１/２）

第13図　遺物実測図（２/２）

塚原古墳群出土遺物観察表（1/2）

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　考
1	土師器 壺	(13.4)	14.4	5.6	赤褐色	普通	白色粒子・砂礫・石英	30%	
2	土師器 高坏	(15.6)	残 5.1		にぶい橙	普通	白色粒子・黒色粒子・砂礫・角閃石	20%	内外面に朱彩
3	土師器 坩	(10.4)	残 4.6		黄橙	不良	白色粒子・角閃石・砂礫	10%	
4	土師器 坩	(7.4)	残 4.5		黄橙	不良	白色粒子・赤色粒子・角閃石・砂礫	10%	
5	土師器 小壺		残 4.8	4.0	黄橙	普通	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母・砂礫	30%	
6	土師器 台付甕		残 7.1	9.8	黄橙	普通	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石	10%	
7	土師器 壺		残 5.5	6.6	にぶい橙	普通	白色粒子・赤色粒子・角閃石・砂礫	10%	
8	土師器 壺	(18.7)	(30.9)	8.4	にぶい橙	普通	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母・砂礫	50%	焼成後穿孔あり
9	土師器 壺	16.8	13.0	6.0	赤褐色	不良	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・砂礫	80%	
10	土師器 壺	(18.2)	残 12.2		暗褐色	良好	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・砂礫	5%	
11	土師器 壺		残 14.4	5.8	暗褐色	普通	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・砂礫	15%	
12	土師器 坏	(12.8)	残 4.7		橙	不良	白色粒子・角閃石・砂礫	35%	
13	縄文土器				暗褐色	不良	白色粒子・赤色粒子・角閃石・砂礫	破片	

塚原古墳群出土遺物観察表（2/2）

番号	出土遺構	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
1	ＳＪ１No.1	編物石	16.7	7.4	3.5	670	砂岩	
2	ＳＪ１No.2	編物石	33.8	11.6	5.4	3000	緑泥片岩	
3	ＳＪ１No.3	編物石	21.7	7.0	4.8	1160	片岩	
4	ＳＪ１No.4	編物石	23.6	6.2	4.4	1020	緑泥片岩	
5	ＳＪ１No.5	砥石	19.8	8.3	5.4	900	砂岩	
6	ＳＪ１No.6	編物石	17.6	5.1	3.0	315	砂岩	９と接合
7	ＳＪ１No.7	編物石	16.1	6.3	4.8	560	砂岩	
8	ＳＪ１No.8	編物石	17.1	5.6	4.1	750	片岩	
9	ＳＪ１No.9	編物石	10.8	4.3	3.3	230	砂岩	６と接合
10	ＳＪ１No.10	編物石	12.4	3.5	2.7	160	砂岩	
11	ＳＪ１No.11	編物石	18.4	6.8	4.9	820	砂岩	
12	ＳＪ１No.12	編物石	21.6	5.2	4.6	810	砂岩	
13	ＳＪ１No.13	編物石	19.6	6.6	4.5	890	緑泥片岩	
14	ＳＪ１No.14	編物石	18.3	7.4	4.9	940	緑泥片岩	
15	ＳＪ１No.15	編物石	17.0	7.2	3.9	910	砂岩	
16	ＳＪ１No.16	編物石	22.4	6.7	4.8	1120	緑泥片岩	
17	ＳＪ３貯蔵穴	編物石	23.0	8.7	4.5	1290	砂岩	

Ⅳ　まとめ

塚原古墳群は古くから知られている古墳群であり、早い時期から開墾されていたことから包蔵地にはなっていたが、遺構が残存している可能性は低いと考えられていた。今回の調査では、古墳群跡ではなく古墳時代前期の竪穴建物跡２軒と古墳時代後期の竪穴建物跡１軒、時期不明の土坑３基が確認された。調査された遺構のほかに、２軒の竪穴建物跡が確認調査時に確認されており、古墳群に囲まれた小規模な集落を調査することができた。

古墳時代前期の竪穴建物跡は、深谷市域の荒川右岸の河岸段丘上では初めて確認された。１号竪穴建物跡はその規模からこの集落の中心的な建物跡と考えられる。今後の周辺地域での同時期の遺跡の調査例の増加を期待したい。

塚原古墳群と同じ河岸段丘上にあり西に約１㎞の所には、古墳時代後期から平安時代までの集落遺跡である如意・川端・如意南・畠山館跡がある。これらの遺跡では荒川から少し離れた古墳時代後期の竪穴建物跡からは編物石が出土しているものもあり、紡績が行われていたと考えられる。しかし、奈良・平安時代の竪穴建物跡からは、土錘が多数出土していることから、この集落の主な生業が紡績から漁猟に変化していったと考えられる。そのため、集落の中心はそれに適した荒川に近く流れの緩くなる如意・川端遺跡に移っていったのであろう。往時の河岸段丘はさらに北側に広がっていたと推定され、塚原古墳群と如意・川端遺跡は一つの集落であった可能性がある。しかし、荒川との距離や周辺に古墳が多数あったことから生活の場としては適さず、古墳時代後期で塚原古墳群の集落は廃絶したのであろう。

最後に今回の発掘調査にご理解とご協力を頂いた方々をはじめ、発掘調査・整理作業に携わり、本調査を支えていただいた皆様に敬意を表したい。

参考文献

1972『鹿島古墳群』埼玉県教育委員会
1989『川本町史　通史編』川本町
1991『瀬山遺跡群発掘調査報告書　大門遺跡、玉性寺跡、道祖神遺跡・塚』川本町教育委員会
1991『川本春日丘工業団地関連遺跡群発掘調査報告書　焼谷、権現堂、権現堂北、山ノ腰遺跡』川本町教育委員会
1991『竹ノ花・下大塚・円阿弥遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
1992『白草遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
1992『川端遺跡発掘調査報告書　第２次調査』川本町遺跡調査会
1992『箱崎古墳群第３号墳・渕ノ上遺跡発掘調査報告書』川本町教育委員会
1993『川端遺跡第３次調査発掘報告書』川本町教育委員会
1994『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』埼玉県教育委員会
1999『畠山館跡　第５次調査』川本町遺跡調査会
2000『如意 / 如意南』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
2001『如意』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
2002『如意３/ 川端』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
2003『如意Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
2004『如意南遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
2004『鹿島古墳群』川本町教育委員会
2004『埼玉の古墳　大里』さきたま出版会
2005『下大塚遺跡・鹿島 76 号墳』川本町教育委員会
2007『川端遺跡１次調査・荷鞍ヶ谷戸遺跡２次調査・向山遺跡１次調査』深谷市教育委員会

図版１

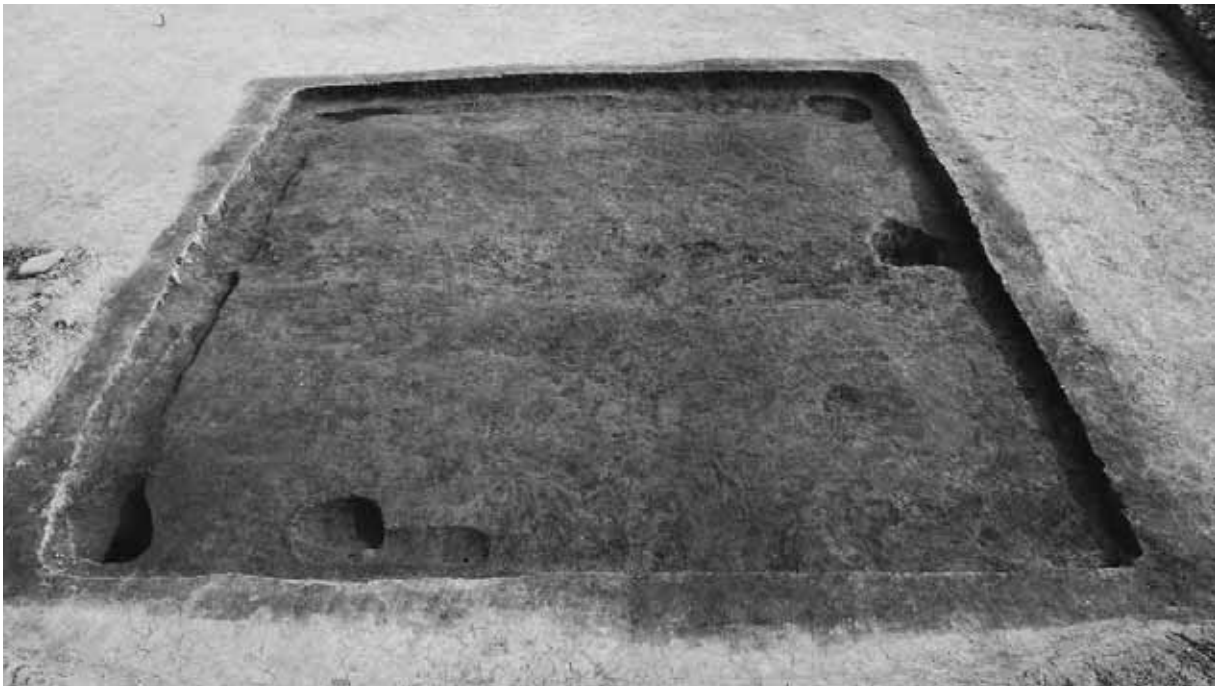
１. 塚原古墳群調査地全景（北東より）

２. 塚原古墳群調査地全景（南東より）

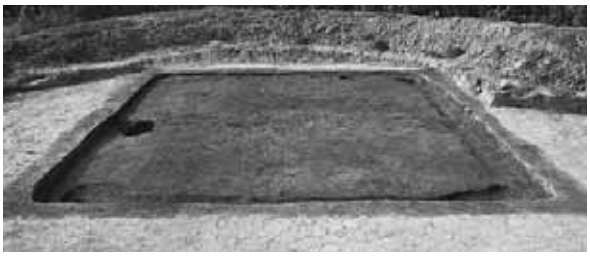
図版２

１．Ａ調査区全景（西より）

２．Ｂ調査区全景（東より）



１.１号竪穴建物跡



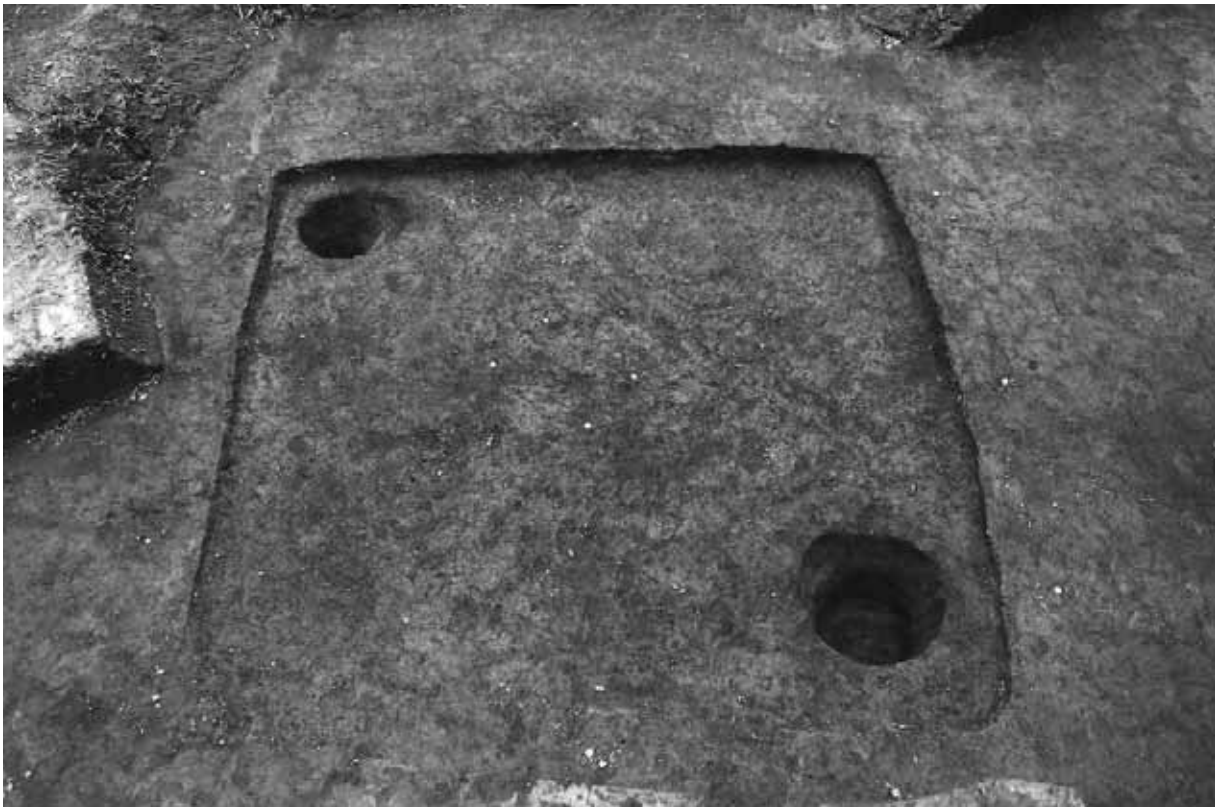
２.１号竪穴建物跡

３.ピット１

４.貯蔵穴

５.炉跡

図版４



１．２号竪穴建物跡

２．炉跡

３．ピット１

４．ピット２

５．調査風景

１．３号竪穴建物跡

２．３号竪穴建物跡

３．カマド

４．貯蔵穴

５．遺物出土状況

図版６

1

2

3

4

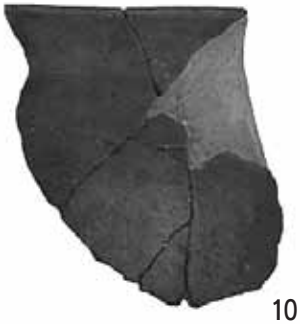
5

6

7

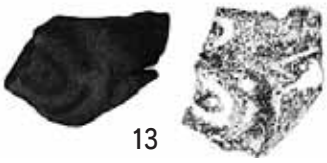
8

9


10

11

12


13

0 (1／3) 10㎝

図版７

図版８

トレンチ１

トレンチ３

トレンチ２

トレンチ４

トレンチ５

報告書抄録

ふりがな	つかはらこふんぐん
書　　名	塚原古墳群
副 書 名	
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	第114集
編著者名	幾島　審
編集機関	深谷市教育委員会
所 在 地	〒366-0823　深谷市本住町17番地3　TEL048(572)9581
発 行 日	平成22年３月25日

所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡	北　緯	東　経	調　査　期　間	調査面積	調査原因
塚原古墳群（つかはらこふんぐん）	埼玉県深谷市（さいたまけんふかやし）畠山（はたけやま）1538番地１	11218	67-011	36°07′57″	139°16′41″	平成21年７月27日から平成21年９月３日まで	580㎡	アパート建設

所収遺跡	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚原遺跡	集落	古墳時代前期・後期	住居・土坑	土器、石器	土師器甕、坏、編物石

発掘調査の概要
古墳群に隣接する小規模集落の調査

塚原古墳群

平成22年３月25日

編集発行　深谷市教育委員会
深谷市本住町17番地３